

図書館だより

天理高校図書館

令和8年 2月

読書で心をあたためよう

毎日、本当に寒いですね。体調はいかがでしょう？

入試、卒業式と節目となる学校行事が続く、少しペースが乱れがちになるかと思いますが、そんな時は、暖かい図書館で、自分だけのゆっくりとした時間を過ごしてください。図書館には、心温まる本やどきどきわくわくする本がたくさんあります。読書で心をあたためて、元気な毎日を過ごしてください。

今月は、図書委員からの「おすすめの1冊」を紹介します。小説だけでなく、いろんなジャンルの本を紹介してくれています。自分ではなかなか手にとらない本かもしれませんが、この機会にぜひ手に取って読んでみてください。

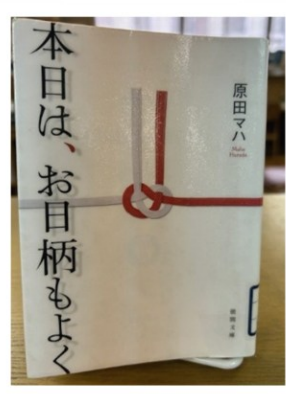
2025年4月～2026年1月までの貸出ベスト3を紹介します。どの本も面白いので、読んでない人は、ぜひ借りてくださいね。貸出中の時は、予約もできますので、カウンターで声をかけてください。

図書委員からのおすすめの1冊

『今日は、お日柄もよく』 原田マハ 著 徳間文庫

OLの二ノ宮こと葉は想いを寄せていた幼馴染の厚志の結婚式に最悪な気分でお出していた。ところがその結婚式で涙が溢れるほど感動する衝撃的なスピーチに出会う。こと葉はすぐにスピーチをした人物、久遠久美に弟子入りし、スピーチライターになるための修行をすることになった。

スピーチライターの久遠に圧倒されること葉にとっても共感できます。また政権交代に対する思いをスピーチにするとところがとても感動します。



この本はドラマ化され、Prime videoとU-nextで配信されています。



参考館で3月9日まで開催されています。天高生は、生徒証を見せると無料になるそうです。

『あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら。』

汐見夏衛 著 スターツ出版文庫



母親とのけんかが原因で、家出をした中学生が、突然1946年6月にタイムスリップしてしまいます。主人公が大切な人と出会い、別れを経験して、成長してゆく物語です。

制限され、抑圧された戦時中の日々の中に小さな喜びを見つける人々との出会いが不満ばかりの百合の気持ちを変えてゆきます。現代日本の生活では考えられないような事が毎日のように起こり、百合には許しがたいことばかりで、トラブルもありますが、自分の気持ちに嘘をつかず、貫き通そうとするとところがとても心にさします。大好きな人との別れのシーンは、何度読んでも泣いてしまいました。



『「がんになってよかった」と言いたい』 山口雄也 著 徳間書店



大学1年生の冬、突然がんを宣告され闘病生活に入った著者。「がんになってよかった」とブログに投稿したところ猛烈な批判にさらされる。その後も入院を繰り返す著者はどんな思いでこの言葉を発し、病と向き合い、人生について考えたのか、心が震えるノンフィクションの物語です。

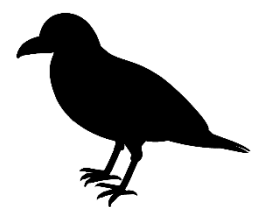
「明日死ぬかもしれない」と考えたことがあるだろうか。たいていの人は、明日や未来は当たり前にくると思っている。そんな“あたり前”の日常が突然、病で奪われてしまう。生きることについて深く考えさせてくれる本です。

『カラスの教科書』 松原始 著 雷鳥社



カラスの生態やカラスの面白エピソード的な話、カラスに攻撃されない方法などのカラス尽くしの本。ちなみにカラスという鳥はいないらしい。

カラスはとても身近な生物なのに、知らないことがとてもたくさんあるのだと気付いた。あとは、著者の体験談もとてもおもしろい。さらに、少しは役にたつことも書かれている。また、分厚いので、読み飽きない。読み終わった後は、きっとカラスが違って見える。



2025年10月に映画化もされた話題作。高校生が過ごしたかけがえない4か月。「こんな恋がしたかった！」と話題沸騰な作品です。



天高貸出ベスト3



2025年5月に映画化。ちょっとだけ、人とは違う力を持っていることを隠している5人の高校生の恋がテーマです。



2025年本屋大賞受賞作。「食べることは、生きること」という言葉の本当の意味をこの本は教えてくれます。